

中間報告書（平成 22 年度）

提出者 平田 知久

提出年月日 2011 年 4 月 12 日

【プロジェクト名】

和文

メディア空間と親密圏/公共圏に関する理論的研究: アジアとヨーロッパの比較研究の試み

英文

Theoretical Research on Media Spaces and Intimate/Public Spheres: Comparative Studies between Asia and Europe

【メンバー構成】

研究代表者

富永茂樹（京都大学 人文科学研究所・教授）

幹事

平田知久（京都大学 大学院文学研究科・研究員（グローバル COE））

メンバー

吉田純（京都大学 高等教育推進開発センター・教授）

鶴飼大介（京都大学 大学院人間・環境学研究科・助教）

山口健一（京都大学 大学院文学研究科・研究員（グローバル COE））

西川純司（京都大学 大学院文学研究科・博士後期課程）

石井和也（京都大学 大学院文学研究科・日本学術振興会特別研究員（DC1））

【ねらいと目的】（600 字程度）

西洋近代における公共圏の形成と、書物をはじめとする手紙や新聞（そして、それを支える鉄道などの大量輸送システム）といった「メディア」の展開は、相即不離な関係にある。他方で、例えば「母から子どもへの読み聞かせ」や「家庭内言語教育」といったものに明らかなように、メディアは西洋近代の親密圏の形成の重要なファクターを担っている（ex. Kittler, F., 1985, *Aufschreibesysteme 1800/1900*）。このようなメディア空間を中心として親密圏と公共圏の双方を同時に考察するという研究視座は、考察領域が多岐にわたることもあってか、これまであまり採られてこなかった。本研究会では、西洋におけるメディア（空間）の文化社会的検討において蓄積されてきた先行研究を踏まえつつ、近代のメディア空間において出来た親密圏と公共圏のあり方を明らかにし、アジアとの比較研究へと接続したい。

【活動の記録】

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等

調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等

その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

1. 研究報告など

- i. 理論班第 7 回定例研究会（2010 年 6 月 25 日）

報告タイトル: 「テレパシー」と親密圏・公共圏に関する諸問題

報告者: 上尾真道 (京都大学 文学研究科グローバル COE 研究員)

ii. 理論班第 8 回定例研究会 (2010 年 7 月 30 日)

報告タイトル: 交通網の表象の変遷・比較から見た「都市」

報告者: 石井和也 (京都大学 文学研究科・日本学術振興会特別研究員)

iii. 第 2 回コアプロジェクト研究会 (2010 年 11 月 8 日)

報告タイトル: 「インターネットコミュニティにおける「記憶」の機能について」

報告者: 平田知久 (京都大学 文学研究科グローバル COE 研究員)

iv. 理論班第 12 回定例研究会 (2011 年 1 月 28 日)

報告タイトル: ディスコース／ネットワークス 1995-2010 —— 日本におけるインターネットカフェの「変遷」について

報告者: 平田知久 (京都大学 文学研究科グローバル COE 研究員)

2. 研究調査など

i. 日本近代におけるガラスの受容に関する資料収集 (東京、2011 年 2 月)

調査者: 西川純司 (京都大学 大学院文学研究科 博士後期課程)

【成果の概要】 (800 字程度)

本コアプロジェクトは、「メディア空間」において成立する／してきた親密圏・公共圏を様々な角度から問い直すことを主眼とするものである。2010 年度は、上記報告者／調査者の個人研究をもとにして、メディア空間と親密圏・公共圏にかかわる様々な論点を共有することを試みた。

まず、i の報告では、19 世紀末西洋において親密な死者との通信手段として人口に膾炙された「テレパシー」を主題として、S・フロイトのテレパシー解釈と「公共圏」との関係が論じられた。また、ii の報告は、世界各国の地下鉄路線網の表象の変遷を主題とするものであり、路線網に示唆される公共圏の範囲とそれを受け取る人々が想定する公共圏との差異、あるいは地下鉄という空間における親密な関係とその問題について、幅広い議論が交わされた。さらに、iii の報告においては、現代の様々な SNS サービスやオンラインコミュニティにおける共同性が、各人の「記録＝記憶」を担保にして形成されていることが論じられ、iv の報告では、インターネットカフェというメディア空間に関する言説の変遷を対象として、現在あるようなネットカフェがどのように形成されてきたのかが論じられた。最後に、研究調査として、日本近代初頭のガラスの受容に関して、文化・経済・衛生 (健康) などの諸側面からの資料を収集した。これらの資料とそこから得られた知見については、次年度初頭の理論班定例研究会で報告される予定である。

2011 年度は、上記の個別研究の展開はもとより、メディア・インフラストラクチャーの歴史に関する西洋の基礎文献の翻訳と、東アジア・東南アジアにおけるそれらの実地調査報告を計画している。また、東北地方太平洋沖大地震とそれに伴う様々な被害のため延期となった、「フィルタリング再考」と題した研究会 (2011 年 3 月 20 日開催予定) も、現状の様子を鑑みたくうえで、年度初頭に開催する予定である。

【通信欄】

(事務局記入欄)

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	(千円)	実績額